

都留市長

都倉昭二

四十周年記念対談

ピアニスト 中村絃子さん



ふるさと会館談話室にて

文化の香り高い 素敵な街に

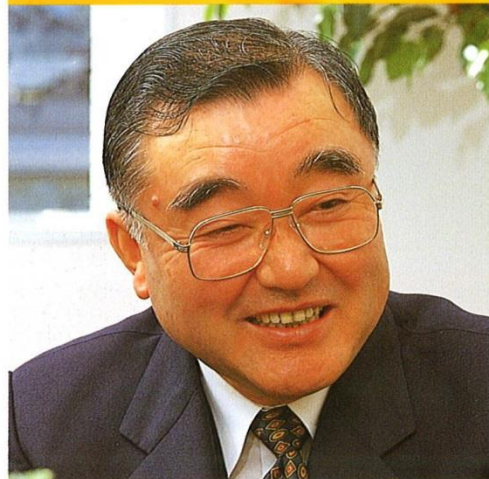
市長 今日はお忙しいところ都留市においていただきましてありがとうございます。先生においでいただいたのも今回で三度目でしょうか。この間は文化ホール等场所を見ていただきました。ありがとうございます。

中村 私は疎開先が山梨で、疎開先で生まれたものですから、山梨という言葉を聞くと、心がじわっとやわらかくなって、つい懐かしさのあまりに急いで参りますけれど、今日は日曜日の朝だったので、私が住んでいる東京タワーのすぐそばの芝公園から車で五十分位で来てしまっただけです。ですから改めてなんて近いんだろうと実感いたしました。

市長 もう住んでいる人々の意識も首都圏という感覚の市民が多くなりつつありますね。中村 でも本当に静かな山の懷に抱かれた都留市の、このふるさと会館も大変素晴らしいですね。都留ご出身の画家の増田先生の美術館をはじめ豊かな雰囲気創られてつつあって、ただの小さな地方の街ではなくて、そういう文化的な行政にもずいぶん力を入れていらっしゃるんですね。

市長 今年でちょうど市制が四十年になりますが、それより一年前の昭和二十八年に教員養成所を作りまして、それが今の都留文科大学ですが、現在では全国から二千五百名の学生さんがここで勉学に励んでいます。

40th anniversary commemorative official talk
A city abounding in culture



都倉昭二都留市長

学園文化都市としての夢のある街づくりを

中村 そんなにですか。私自身この大学をあまりよく知らなかったんですが、先日都留市のことを他のところで申しましたら、「ああ、あの文科大学はとてもしい学校ですよ」と全然知らない方から伺ったんで、改めて見直しました。

市長 今年も倍率が十九倍と公立大学として大変人気が高いんです。都留には大きな産業もございませんから、四年間全国から学生さんをお預かりをして、四年後にはまたふるさとへお返しするというところに誇りを市民が持ちながら、街づくりを進めています。そのようなことから今回計画を進めています文化ホールにつきましても、大学のそばへ立地をさせていただきました。学園文化ゾーンとしての整備、そして先生のご指導もいただきながら、立派なものにしていきたいと考えています。

公共施設は市民に一級品を与える使命がある

中村 実は私も先だってちよつと調べました

ら日本というのは、例えばアメリカとよく貿易摩擦なんかで比較されるんですが、アメリカのカリフォルニアより小さいんですね。五十一州の中のただ一つの州より小さいんです。その小さな中になんと現在ホールが千五百あるんです。本当に驚きですよ。さらに今年だけでも新しくできるホールが沖繩も含めますと九十あるそうです。私はつい先日まで、ニューヨークのアメリカンシンフォニーオーケストラと日本中演奏旅行したのですが、彼らは今度初来日だったんですけれども、行く先行き先で、すばらしいホールがあつて、ピアノがすばらしくて、みんな感動しちゃうんです。日本ですごい国だって、なんかアメリカは及びもつかない文化大国だって言うんです。そう言われてみますと、例えばニューヨークのカネギーホールなんて言いますと私たちにはとても有名で、音楽の殿堂なんて言われていますけれど、置いてあるピアノは本当に古いピアノで私たち日本から行くときショックを受けるくらいなんです。そういうことを考えますと、日本は施設には恵まれています。ただ今後は、それだけの施設をどう有効に使うかが一番の問題だと思います。今度

私も及ばずながら、少しお手伝いさせていただくようになっていくんですけど、やっぱり考えますと、三万の市民の皆さんと非常に密接に交流する場として使うということが一番重要な事ではないでしょうか。

市長 まったくその通りだと思います。文化施設の充実とともに内容をどうしていくか、皆さんと共に考え、とりわけ音楽や芸術にかかわるものですから本物を狙いたいですね。

中村 いいものは確かに理屈抜きに感動がありますから、これは俗に申しますけど、言葉が適切かどうかは分かりませんが、「質屋の小僧仕込むのに、三流品はいらない」と。最初から一流品さえ見せると自ら三流品を見分ける力がつくという話がございます。特に子供のうちから一級品を与えておくと、理屈で言わなくてもすぐこれはいいものじゃないねと分かるんです。それこそ市民会館ですとか公共施設というのは、市民に安くていい条件で誰にでも、一級品を与える使命があると思うんです。それと同時に地についた、底辺のつながりというものが非常に大事だと思います。その辺が具体的にどういう企画で実現できるかをこれから一番考えていかなければならないことですね。

世界に向けて直接文化を発信する

市長 中村先生からこの間、さらにもつと先を見つめた視野で音楽文化の発信できるようなスケールで考えた方がいいとアドバイスをいただきましたが。

中村 音楽は世界のすべての人々と共有できる財産のようなものですよ。それから、この辺は世界的なリゾート地もございますから、そういう意味で世界中からいろんなお方がいらつしやいますから、もつと様々な面から世界にアピールできますよね。今日本という

は全て東京から世界へ発信するという状況になっていますが、そろそろ都留市から直接発信する時代ですね。特に文化ホールなんかはそういうことが行われてもよろしいんじゃないかと思うんですね。

市長 只今の先生の話は先生の新しい著書の中にも書かれておりましたが、拝見しまして大変勉強になりました。

中村 ありがとうございます。いいホールができれば素晴らしい音響効果ができると思いますが。そうしますと世界から一流の人たちが来てくださる可能性が、これから大いにあるわけです。そういうものとそれから私たちの身近なところでの地道な文化活動と二流のアーティストとの融合をうまくやっていくことによって、国際文化都市としての都留市が見えてくるのではないのでしょうか。

市長 そんなわけで、文化ホールの施設につきましても、私も素人ですから、あのパイプオルガンに私もこだわりまして、検討を進めたんですが高価なものですから、このホールに何がふさわしいかいろいろ議論しました。中村 あれは、もう本当にどこでも使っています。ですからパイプオルガンに何億かおかけになるのならばもっと有効に考えるといいですね。

市長 そのかわり中村先生がこれというピアノだけとは、思っているんです。

中村 日本でパイプオルガンを一番最初に入れたのがNHKホールで、二十年位前ですよね。東京で一番の大きなホールですし、NHKですら使用度も一番多いですけど、それでもパイプオルガンだけ独立した演奏会は客が集まらないですから、できないんです。月に一回の放送とそれから、NHK交響楽団の定期演奏会をやっていますから、このなかでパイプオルガンを使う作品を年に二度位取り上げられる。いわば、一生懸命使われることを

頑張っている、演奏会自体が難しいんですよ。東京ですうですから、山梨ではね……。

音楽や芸術を通じて 新しい街をイメージする

市長 そうですね。それはよかったです。ぜひ先生にそういったソフトの面でいろいろとご指導いただいて、市民をはじめ多くの人々が良い音楽に接して、心豊かな文化の発信する街になりたいですね。

中村 そして立地環境も大変いいです。東京から本当に近いですから、東京までを視野に入れて、いろいろと計画を立て、いろんなことをなさるといいですね。例えば音楽だけでなく帰りにあれを食べるのが楽しみみたいな……。ほうとうだけでなくね。(笑い)ただ、ここでフランス料理、イタリア料理をやってもしょうがないですね。



市長 普段が三万の人口ですから、経営的にやっていくのは大変なんです。そのためには市以外から来ていただくような魅力あるものが必要でしょう。私どもは歴史的にお菓子づくりなんかは比較的盛んで、全国的なコンクールにも出品しているんですよ。

中村 本当ですか、それは和菓子ですか。

市長 ええ、和菓子ですね。こういう田舎ですらそういう食文化というのも、先生がおっしゃったようにいろいろな産業と関連して考えると夢が広がりますね。

中村 ちよつとしたムードの問題なんかもあるんですね。素敵な音楽を聞いたあとに、帰りに裏さびしいうどん屋なんかですすって帰るっていうんじゃないかってね、ちよつと小綺麗などこでワインなどをね。

市長 ワインといえば山梨はワインの本場ですし、美味しさも本物です。また都留は城下

40th anniversary commemorative official talk
A city abounding in culture

町ですから、落ち着いた街並みと豊かな自然があふれています。さらに喫茶店とかお洒落なレストランとかができれば・・・。

中村 そうですね。音楽を中心に文化の香り高い素敵な街のイメージが広がりますね。

文化ホールは緑の森の中の音楽堂

市長 ですから文化ホールにつきましても先生が場所的にいいとだと太鼓判を押してくださったので非常に勇気が湧いてきました。中村 やはり学校とある意味で連携が必要ではないかと思えます。

市長 市民全体とすれば、例えばクラシックだったらクラシックのファンというのは学生がかなりいますからね。

中村 それで学生というのは毎年新しい学生が入って、入れ替わりますから常に新しい人

がこの文化に触れてくださいますよね。

市長 またこの大学には将来教師を目指す人も多く、先生というのは音楽が必修になっていますから豊かな感性を養ってほしいですね。

中村 この頃は私立の大学ではカリキュラムの中に音楽の演奏会を入れてありまして、大阪のある女子大学では、私は毎年一月に演奏会を十何年やっているんですけれど、私の演奏会に来ると、単位をもらえるんです。それから松戸のある学園でも素晴らしいホールがあつて、そこにベルリンフィルとかですね、一流のアーチストを呼ぶんですね。もちろん一般公開なんです、学生は特に安くしてあつて、それが単位なんです。そういう風なのもおもしろいと思えますね。

市長 特にうちの場合は、山が多くてそこに大学があつて、そこどうしても、大学のキャンパスの中に作りたいということで、自然の

多い森の中の音楽堂というイメージをぜひ作り上げたいと思っています。ですから先生が言われたようにそこへ来た時に、印象に残るようなものになりたいと思っています。

中村 その通りですね。

市長 先生、音楽というのは生まれながらにしての備わった天才というか、環境によつてということになるのでしょうか。

中村 これはやはり大きな意図があると思うんですね。やはり「水源のないところに井戸は掘れない」ということが言えると思うんです。例えば第一回チャイコフスキージュニアコンクールがモスクワで行われた時の優勝者がロシアの十五歳の少年で、その子は母方も父方もおばあさんが相当なピアニストだったということ、そしてまたお父さんが若い時にエリザベスコンクールというすごいコンクールで一位をとつて、日本に演奏旅行に何度も来ている。今十九歳位のお兄ちゃん、これももうすごいという、ですから小さい時から上質のそれこそ「質屋の小僧」じゃありませんけれど、いい音を聴いてるとそれがスタンダードになりますし、そういう環境に加えて本人の資質がよければそれはもう素晴らしいということなんです。

ものごとを静かに見極める力を養う

市長 それには、その国の歴史的な背景とか文化や社会の成り立ちなども影響しているんじゃないですね。

中村 ひとつには今までソビエトだった訳ですから、非常にいろいろな点で人間の人生に制約が課せられていた主義の国です。そうしますとその中で自分が没頭するものを見つけて、そこへ深く静かに潜行するような生活がどうしても傾向として多かったと思うんです。アメリカも含め西ドイツ、日本なんか典



型ですけど、生活のためにじゃなくて、たやすく身の回りにおもしろいことがいっぱいありますけれど、人間好んで苦勞なんかしないですよ。だから物の考え方の息づかいが浅くなってるんですね。深く何かを考えようと思ってるんですね。あんまりいろんな情報があると、どれを自分が必要としているかわからない。だから寿命が伸びても、大人の時間が伸びたんじゃなくて、子供の時間が伸びたと言われてます。要するに情報が多過ぎると混乱してしまう。人間というのは混乱してしまうと、成熟しない。成熟には時間をかけてじっくり自分の求める物を見極めるという静けさが必要です。

市長 そうしますと人間成長期には行動的に自分を鍛えながらも、じっくりと自分を静かに見つめて、いろんなものごとを見極める力を養う必要があるんですね。

中村 ですから年だけは取っているけれど、精神的には成熟しない大人子供が増えているんです。これは情報の氾濫による影響ですね。ですからこちらの大学はある意味で、非常にいい環境にあるというのは、特に東京の大学なんかに出ていますと気が散ることがいっぱいありますよね、むしろ派手派手なレストランさえもない地味な学園としてあるからゆえに、じっくりと勉強に腰をすえていい成績をあげることができるということが言えるんですね。ある意味では理想的な学園都市ですね。市長 ありがとうございます。大学があるということでも市民の文化に対する理解が高いんですね。それに大学でもなかなか音楽には力を入れているんですよ。クラシックも大分熱心にやられているようですけど。

文化には広い視野と 大きな心が大切

中村 そういう地元の音楽関係者の方や音楽



の先生方のニーズなんかも直接詳しく伺って、ご意見を取り入れたりする必要があると思います。ね。何と言ったって都留市民の文化ホールなんで、これは他のどのでもないですから、やはりここで生活していらっしゃる方の宝ものですか。

市長 この間もアンケートで、全市民からどういうホールを欲しいかとか、どういうことをして欲しいかという全市民一万世帯にアンケートを取りましてね、今後の方針にしていこうということで全部細かくお願いしたんです。

中村 こうした文化というのは「ローマは一日にしてならず」と言われているように、即席でできるものではありませんので、大きな長い広い視野でそれから寛大で大きな心で見つめていただきます。文化もわずか二、三年の範囲でいろいろ計画しますと、やっぱりいいものができないかもしれませんので、そのためやはり市長さんはじめ、市民の皆さんの心の広さとご理解が必要になってくるんだと思います。

市長 そういった意味で、二十一世紀を展望した長期的な視野に立った文化の創造という、夢のある街づくりに皆さんと共に取り組みたいと思います。また先生がお気づきになりました点につきましては、ぜひどんどんと言っていたら、より良いものになりたいと思います。私も素人です。でも素人は素人なりにまたいいものかと思っているんですが。(笑)

中村 いえ、市長さんをはじめ市民の皆さんの音楽や文化にかける情熱はなみなならぬものがあると感じさせていただいております。ぜひとも頑張ってください。

市長 本日はどうもありがとうございました。

平成六年二月六日(日)

40th anniversary commemorative official talk
A city abounding in culture